

2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	ヒューマンファクターによる環境設計法小委員会	主 査 名：横山 計三 就任年月：2015 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)	委員長名：岩田 利枝 主 査 名：秋元 孝之
設 置 期 間	2015 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>ヒューマンファクターを考慮した環境構築法として設計ガイドなど具体的な資料を整備していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：研究事例、実施事例の調査、現状の把握および問題点の分析など ・ 2 年度：環境構築についての設計手法の素案を作成する。 ・ 3 年度：環境構築についての設計ガイドを作成し、成果発表としてシンポジウムを開催する 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：横山計三 (工学院大学) 幹事：三浦克弘 (鹿島建設) 委員：野部達夫 (工学院大学)、秋元孝之 (芝浦工業大学)、田辺新一 (早稲田大学)、大黒雅之 (大成建設)、佐々木真人 (日本設計)、大宮由紀夫 (竹中工務店)、近本智行 (立命館大学)、村上宏次 (清水建設)、小林弘造 (日建設計)、島潔 (大林組)、橋本哲 (ダイキン工業)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2017 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	成果をまとめ、来年度に出版小委員会を立ち上げ、最終的に出版する予定である。
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	なし
大会研究集会	なし (2018 年度大会において OS を行う予定)
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 現状把握、問題分析として意見交換、知見の整理を行った。 2. 昨年度に続き、研究事例、実施事例の調査として、「ヒューマンファクター建築技術シート」を作成し事例収集を行った。 3. 設計ガイドの作成には至らず、収集した事例や要素技術についてまとめた。 今後、出版小委員会に移行し、成果物を出版する予定である。
委員会活動の問題点 ・ 課題	なし

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>当小委員会では、最終年度（3 年目）として以下のような点について活動を行った。</p> <p>■活動概要</p> <p>1.成果物の形態、内容について討議。 これまでの委員会で取り上げられたヒューマンファクターに関連する事例、要素技術、評価技術について検討し、原稿作成にかかった。</p> <p>2.成果物は、出版小委員会を立ち上げ、次年度以降に出版することとした。</p> <p>3.建築設備シンポジウム（10 月 31 日開催）にて、「ヒューマンファクター建築と要素技術」について発表</p> <p>4.出版目次案</p> <p>1. 社会的背景</p> <p style="margin-left: 20px;">1. 1 環境共生・省エネのニーズ、居住者の健康性への関心</p> <p style="margin-left: 20px;">2. ヒューマンファクターデザイン</p> <p style="margin-left: 40px;">2. 1 ヒューマンファクターとは</p> <p style="margin-left: 40px;">2. 2 環境設計論の変革</p> <p style="margin-left: 40px;">2. 3 人間の行動特性・心理的反応に関する研究成果</p> <p style="margin-left: 20px;">3. ヒューマンファクター建築の社会的動向</p> <p style="margin-left: 40px;">3. 1 経済産業省資源エネルギー庁と NEDO の動向</p> <p style="margin-left: 40px;">3. 2 環境省の動向、</p> <p style="margin-left: 40px;">3. 4 パーソナル空調</p> <p style="margin-left: 40px;">3. 5 建築学会委員会の活動概要</p> <p style="margin-left: 20px;">4. ヒューマンファクター建築のデザイン手法</p> <p style="margin-left: 20px;">5. ヒューマンファクターの要素技術</p> <p style="margin-left: 40px;">5. 1 室内環境と人体の反応に関する技術</p> <p style="margin-left: 40px;">5. 2 装置技術：熱・空気・音・光などに関する技術</p> <p style="margin-left: 40px;">5. 3 制御・センシング：環境や状態をセンシングして、制御する技術</p> <p style="margin-left: 40px;">5. 4 統合化技術：要素の組合せを最適化する制御アルゴリズムなどの技術</p> <p style="margin-left: 20px;">6. ヒューマンファクター建築の事例</p> <p style="margin-left: 40px;">6. 1 建物事例編</p> <p style="margin-left: 40px;">6. 2 研究事例編</p> <p style="margin-left: 20px;">7. ヒューマンファクター建築の将来</p> <p>■見学会</p> <p>1. 工学院大学八王子キャンパス新 2 号館</p> <p>■新小委員会の立ち上げ(2018 年度)</p> <p>「ヒューマンファクターによる環境制御法小委員会」として、評価法、制御法などについて、さらに検討を深めることを目的として、来年度に立ち上げる。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。